

「市民の立場」でモノを言い しっかり働く

地下鉄東西線や平成初期の大規模投資という財政悪化の責任を頼かむりし、「このままでは10年以内に財政が破綻する」と市民を脅かし、福祉やくらしの予算を切り捨てる一方、北陸新幹線延伸計画など大型公共工事はあくまで推進しようとする姿勢は許せません。市政を、くらし・福祉・生業応援へと転換していくため、全力で頑張ります。

日本共産党 市議員

かまの敏徳

としのり

労働者、中小・小規模事業者支援は急務 京都市の独自支援策実施で 地域経済を元気に

9月30日、2度目の代表質問に立ちました。

全京都建築労働組合の調査をもとに、「2020年の公共工事現場労働者の1日当たり賃金が前年より1,174円下がった」という事実を指摘。京都市公契約基本条例に賃金条項を盛り込んで、賃下げが起こらないよう、市の役割を果たすべきと求めました。

また、中小・小規模事業者支援として、コロナの影響を受けた事業者への直接給付など、市独自支援策を求めました。

労働者をはじめ、地域経済の主人公である中小・小規模事業者応援に全力をあげます。



9月30日代表質問



中小業者の合同新作発表会



中央卸売市場訪問

まちこわしストップ、 愛する京都を守れ



ホテル建設中の
元植柳小学校跡地

「植柳小学校跡地問題を考える会」をはじめ、みなさんとともに、住民パワーで安心して住み続けられるまちづくりに取り組んでいます。

京都各地で市民のみなさんが、観光インバウンド頼み、住環境・景観との調和を図らない市政に、政策転換を求めて運動されています。

住民パワーで
安心して
住み続けられる
まちづくりを

なくせ！ 格差と貧困

子ども食堂や食料支援プロジェクトにボランティアとして継続的に参加しています。

また、学生支援として、市独自の給付制奨学金制度創設、京都市独自の食料支援策を代表質問で求めました。2月の委員会で、コロナ禍での生活保護申請方法の改善を求め、3月、市ホームページに「生活保護の申請は市民の権利です。ためらわずに相談してください」と掲載されました。

子どもや青年学生、所得の低い方々がコロナ禍でも安心して生活できるために、引き続き力を尽くします。



子ども食堂

子ども・学生
・低所得者・
生活困窮者への
支援充実を